



2011~2012年度
国際ロータリーのテーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために
2011~2012年度
RI会長 カルヤン・ハネルジー

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創 立 : 1980年(昭和55年)1月10日
会 長 : 高須 洋志
幹 事 : 馬場 将嘉
クラブ広報委員長 : 関谷 俊征
例 会 日 : 毎週木曜日 PM12:30~
会 場 : ヒルトン名古屋

事 務 局 : 460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
T E L : 052-211-3803
F A X : 052-211-2623
M A I L : 2760_nagoya@mizuho-rc.jp
U R L : http://www.mizuho-rc.jp/

第1546回例会

2012年4月12日(木) 晴 第36回

~雑誌月間~

クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

司 会 : 伊藤豪会場副委員長
齊 唱 : 「我等の生業」「四つのテスト」
ゲ ス ト : RI2760地区ローターアクト直前代表 猪子知里さん

副会長挨拶

吉木洋二副会長

かつてイザヤベンダサンが「日本人は水と安全はタダだと思っている」と書きましたが、現在はどうなのでしょう。高須会長が数ヶ月前に空気と水について話されましたが、地球規模では色々な問題があるようです。



人間との関わりで言うと、食事を摂らなくても、2、3週間は生きていけますが、水を飲まなければ、4、5日で死んでしまいます。体重の内、大人は60%、子供は70%、胎児は90%が水でできているそうです。その2%が失われると口や喉が渇き、10%が失われると筋肉の痙攣や腎不全になり、20%が失われると生きていけません。水が不足している中近東やアフリカの砂漠地帯に住む人々は1日25ℓ、特に不足している西アフリカのある村では5ℓの水で暮らしているそうです。日本人が1日に使う水の量は約300ℓ、その内3ℓが飲み水や食事として体内に入り、残りは汚れを落とすために使われます。欧米などの人々は郊外の芝生に散水したり、プールに使うため、使用量は400ℓにもなります。しかしこうして使用される量ではなく、食べ物や飲み物を生産するために使われるの方が大きな問題となっています。人口の増加に伴い、食料の増産が求められていますが、西欧、北米、日本のように年中適度に雨が降り、気候も良い地域ではないアジア大陸、アフリカ、南米では、水を得るために大河から長大な灌漑を作り、地下帯水層から汲み上げています。ヒマラヤからもたらされる大量の水からなるインダス川流域では、イギリスが長大な灌漑により広大な農地を作りましたが、その水がもたらした塩によって多くの農地が使えなくなりつつあります。また黄河も河口まで水が届かなくなっていると言われていて、先日の新聞では、イギリス南部では散水や洗車が禁止され、オーストラリアも日照りで水不足だと報道されていました。日本は震災こそありますが、ほとんど水には困らない自然に恵まれた素晴らしい国土だと改めて感じる次第です。

ニコボックス

長瀬憲八郎ニコボックス副委員長

・4月15日は41歳の誕生日です。先日、長女の中学校入学式に出たのですが、中2の時の担任の先生と25年ぶりに再会できました。なぜかケツバットされ、叱られた事を鮮明に思い出しました。

近藤 茂弘さん

・妻の誕生日に素晴らしいお花をありがとうございます。

落合 諭さん

・高村さん、高須さん、先日は四国旅行にご同行させて頂き、ありがとうございました。美味しい桜鯛を食したり、二次会ではお座敷できれいな芸妓に囲まれ、阿波踊りのフィナーレで楽しく遊ばせてもらいました。勿論『100切り観音』と『ザクザク地蔵』をお参りしてきました。翌日のゴルフのスコアは内緒です。

野崎 洋二さん

・地区ローターアクト直前代表の猪子知里さん、今日は卓話ご苦労様です。

遠山 堯郎さん

・やっと春らしくなりました。

鈴木 淑久さん

・暖かくなりました。ゴルフシーズン到来です!!

湯澤 信雄さん

・やっと春の暖かさが出てきて、気持ちも爽やかになります。

湯澤 勇生さん

出席報告

長瀬憲八郎出席副委員長

会員68名 出席48名 (出席計算人数51名)

出席率 84.2% 4月 5日は補填により 100%

幹事報告

馬場将嘉幹事

- ・4月15日(日)はウェスティンナゴヤキャッスルにて地区協議会が開催されます。受付時間は9:30~10:20、会議は10:30~15:00です。
- ・次週4月19日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて新旧CA・理事会を行います。
- ・松波恒彦会長エレクトからの伝達です。次年度の会員名簿作成のため、3年以内の顔写真を4月26日(木)までに事務局へ提出して下さい。できれば画像データをお願いします。
- ・6月1日(金)13:00~19:00、ホテルグランヴィア京都にて第3回日台ロータリー親善会議が開催されます。参加申込の締切は4月25日(水)です。
- ・6月9日(土)17:30~と20:30~、ウェスティンナゴヤキャッスル1階「シャンボール」にて五嶋みどりさんのチャリティーコンサート(会費:13,000円)が開催されます。参加希望者は事務局までお申し出下さい。

卓話

RI2760地区ローターアクト直前代表 猪子知里さん

カンボジアの子どもたち



RACでは『18~30歳までの青年男女のための地元RCが提唱する奉仕クラブです。社会奉仕、国際奉仕、専門知識の開発などの具体的な活動を通じ、1から企画することによって指導力や自己能力の開発を目指し、毎年テーマを決めて活動する』と謳っています。しかし私がRACに誘う時は分かりやすく、『18~30歳までの男女が奉仕活動をメインとして交流する場で、活動を1から企画するので企画力が

身に付き、大変な時もあるが、一緒に何かをやり遂げる友達以上の仲間ができます。社会人になっても年上から若い人、そして外国にも友達ができ、国内研修や海外研修も格安で行けます』と説明しています。今、婚活パーティーが流行っていますが、RACでは一緒に活動することにより、相手がどんな人か分かるので、どんな婚活パーティーよりも良いと思います。実際に私も前年度に結婚した相手はRACの方です。RACに入会するきっかけは何でも、活動していく内に楽しくなっていけば良いと思います。

2010-2011年度に予算の関係でRACの海外研修がなくなると言われていました。2009-2010年度は愛知県で全国研修会が行われたので海外研修はありませんでしたが、それまではシンガポールやインドネシアなどに行っていました。海外研修は研修先のRACの方々との交流がメインとなり、その他は観光などをしていました。しかしRCから補助金を頂いているので、海外研修を復活するにはタメになる事を行わなければならないと思い、海外奉仕を取り入れた海外研修として2011年1月27日～30日にカンボジアへ行きました。当時、カンボジアに関する報道が多く、実際にはどうなのか自分の目でカンボジアの現状を確かめたかったです。カンボジアは王国なので国王がおり、公用語はクメール語、首都はプノンペンです。今回はアンコールワットがあるシェムリアップへ行きました。通貨はリエルですがお釣りで見掛けたくらいで、USドルをメインに使っていました。カンボジアはポルポト政権が成立した時から内戦が激化し、教師や医者をはじめとする知識人がどんどんと虐殺されました。国連が紛争の解決に乗り出してからは少しずつは良くなっていると聞いてますが、教育を受けられない子供達も多いというのが現状です。カンボジアでお世話になったチアノールさんはポルポト政権時代の幼い頃に両親を殺されたと仰っていました。日本に逃げ、日本で教育を受けた後、カンボジアに戻って奉仕活動をされています。教育が十分に整備されておらず、就学率・進学率はとても低く、中学校への進学率は約34%です。ゴミ山で生活する人や1日1ドルで生活する人など、まだまだ苦しい生活をしている方が多いのです。海外研修へ行くにあたり、カンボジアについての勉強会と訪問先の小学校で何を行うかの打合せを12月に行いました。打合せでは様々な意見が飛び交い、子供達と遊ぶ事が果たして子供達のためになるのかといった意見も出ました。しかしチアノールさんから子供達は外国人と遊ぶことについて、とても興味深く思っており、楽しい時間だと仰って頂きましたので、折り紙で折り鶴や紙飛行機を作ったり、『色鬼』という鬼ごっこをし、短い時間ですが子供達と楽しい時間を過ごすことに決めました。岡崎RACの方が集めた鉛筆などの文房具やいらなくなった服を支援物資として直接みんなで運びました。到着2日目に小学校を訪れた際、チアノールさんが主体となって活動しているJSTにご協力頂きました。まず校長先生やJSTから説明を受けましたが、その間も子供達が私達や支援物資に興味深そうに見ていました。日本の風景写真を紹介したり、みんなで千羽鶴を作って贈呈しました。JSTを通し訪れる日本人観光客もいるので、子供達も日本人に慣れているそうです。子供達は栄養が足りていないせいか、日本の小学生に比べ、かなり体が小さかったです。せっかく学校に通えても、学費や制服代が賄えない事も多く、皆裸足で、汚れた制服を着ていました。英語はほとんど話せないで、主にジェスチャーでの交流となりましたが、観光の街のせいか日本語を話せる子供もいました。『色鬼』を行うための説明も真剣に聞いてくれ、私達も童心に返って遊びました。カンボジアの遊びも教えてもらい、すごく暑かったですが、楽しく過ごすことができました。最後に『アラピア』という歌を皆で歌いました。生徒会長の男の子が大人の私達が驚くようなしっかりしたお礼の挨拶をしてくれました。JSTは学校だけでなく、塾の経営も行っていたので、そちらも訪問し、子供達と交流ができました。子供達は日本からの支援物資なのか、日本語が書かれたTシャツを着ていました。この街の住居は電気・ガ

ス・水道も通っておらず、道の整備もされていません。

子供達は貧しい暮らしをしながらも、家族の絆が強く、家族同士支え合い、今を生きることによって一所懸命だと交流から感じました。彼らを見ていると、世界の中でも自殺者が多いと言われてこの日本で暮らしている事が本当に幸せなのかを考えさせられました。私達が彼らを支援することが正しいことなのか分からなくなりました。訪れた小学校の子供がアンコールワット付近で物売りをしている姿を見掛け、物の支援よりもお金の支援の方が良かったのかとも思いました。私達にとって、幸せとは何かを考えさせられる研修となりました。これからのカンボジアを作っていくのは子供達です。これからも何らかの形でお手伝いさせて頂けたらと思っています。カンボジアへ行くにあたり、1年前から行った募金活動では671,580円が集まりました。昨年10月、チアノールさんが愛知にお越しになった時に贈呈式を行いました。募金によって、タイの洪水の影響で被害を受けた土岸整備を行い、学校に動物が入ってくるのを防ぐための柵を作ったと報告を受けました。その他にも焼却炉を作る計画もあるそうです。

RACでは私達の将来の糧となるような活動をさせて頂いています。RCの方々からのご支援は大変有難く思っております。RACに入会した人達は入会から卒業までの間に人が変わるような貴重な体験をさせて頂いています。RCの皆様には本当に感謝致しております。本日はありがとうございました。

国際ロータリーニュース

ロータリアンがウガンダでエイズ孤児を支援

ウガンダでは、120万人以上の子どもたちが、HIV/エイズにより両親を無くしています。

ロータリー財団と協力団体は、ウガンダでエイズ孤児となった子どもたち500人以上に医療支援を提供し、未来への希望を与えています。

医師であり、カリシゾ・ロータリー・クラブ(ウガンダ)会員のジョセフ・マトブさんは、「子どもたちは、両親の死を乗り越えて、一生懸命生きようとしています。私たちはそんな彼らに支援を提供しているのです」と話します。

マトブさんの地域のロータリアンによる活動は、ロータリーの重点分野の一つである「疾病予防と治療」分野での活動の一例です。4月7日の世界保健デーを記念して、これらの活動を支えるため、ロータリー財団へのご寄付をお願いいたします。

また、クラブや地区が行う地元や海外での活動を支援するため、シェアへご寄付いただけるだけでなく、疾病予防と治療の重点分野を指定した寄付を行えば、世界中のロータリアンにより実施されている質の高い疾病予防のプロジェクトを支援することができます。

いずれのご寄付も、世界の緊要なニーズに応えるために、影響力が高く、持続可能な解決策をもたらすプロジェクトに利用されます。



例会のご案内

■今週の行事 4月19日(木) なごやか例会

■次週の行事 4月22日(日)

行 事: 春の家族会
場 所: Le BENKEI

■4月26日(木) 振替により休会